MCj02236580000[1]

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1位数＋1位数＝10以下のたし算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・本単元前半で，合併と増加の問題を学習している。

教材研究ノート№1-A-2

≪学習問題≫

公園の絵を見て，3＋2となるお話をつくりましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し:場面がたくさんあって，どこでつくればよいかわからない。

→数が5つある場面を探して，お話をつくればよい。

②学習課題:公園の絵を見て，5つあるものを探して，3＋2の式になるお話をつくろう。

③個人追究:場面と式を対応させて，お話をつくり説明する。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

・隣の友達に紹介→全体でいくつか（同じ場面で複数）発表

「みんながつくったお話は，どんな式になるかな？」

→「（1つ目）3＋2」「（2つ目）3＋2」…

「どのお話も，みんな3＋2の式になる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「ここにあるお話は，どうして“たし算”だとわかるの？」

→「だって，“合わせて”があるから。」

「他にも，“全部で”“みんなで”“増えると”“くると”…もたし算になる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・“合わせる言葉”“増える言葉”があると，たし算になる。

・種類が違っても，同じ物をたす場合は3＋2という同じ式で表すことができる。

**MCj02321500000[1]**

⑥定着･活用問題

さとしくんは，公園の絵を見て，「4＋3」

の問題を次のようにつくりました。

「自転車が4台と子どもが3人で，合わ

せて何人になりますか」

この問題の間違いを探しましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，数が3つのものと数が2つのものを別に扱うのではなく，数が5つある場面をもとに3＋2のお話づくりをさせると見通しをもたせやすい。

・共同追究では，「合わせる言葉」「増える言葉」を大切に扱い，たし算になる言葉を多く取り上げ確認したい。これにより，言葉を通して算数的な考え方を育成したい。

【板書計画】